

7 本行寺



境内には四国連合艦隊との戦いで亡くなった奇兵隊士の名が刻まれた「戦死の塚」や小倉戦争などで亡くなった隊士の墓があります。

3 前田台場跡

外国との戦争に備えて、青銅製の大砲(長州砲)が設置されていたが、元治元年(1864年)8月に四国連合艦隊との戦いで占領されました。その際、一部の大砲は外国に取り上げられています。なお、小倉戦争では、主力の台場ではなく、敵の接近などを知らせる合図場として利用されたようです。



13 勝山御殿跡

前田台場などが外国船から攻撃されたことをうけ、長州にあった藩主の館も危険が迫ったため、文久3年(1863年)に勝山の山間部に新たに城を造り、翌年には藩主が移り住むに備えました。御殿と名前が付いていますが、実質は石垣や土塁などを持つ城で、以降小倉戦争など、下関の守りの拠点となりました。



高杉晋作
新で生まれ、新で学んだ晋作は、下関で戦艦を受け、さらに成長し、下関をその活動の舞台としました。

高杉晋作が躍動した 維新の舞台 下関

江戸時代の終わりから明治時代の初めにかけて日本では、政治や経済、外国との関係、まちの様子など社会全体が大きく変化していききました。このころ、高杉晋作は下関を舞台に活躍しました。そのため下関には、晋作ゆかりのある場所がたくさんあります。



6 厳島神社



萩藩新地会所のすぐ近く、元治元年(1865年)に平家ゆかりの地に建立されました。神社にある太鼓は、慶応2年(1866年)、小倉戦争の戦勝祈願をした高杉晋作が、小倉城から持ち帰り、戦勝のお礼として奉納したものと言われています。

5 奇兵隊陣屋跡

慶応元年(1865年)本拠地を吉田に移した奇兵隊は、慶応3年(1867年)この地に新しい陣屋を築きました。隊士の部屋、講堂、種古場、物置、風呂などを備えた施設で、現在も当時の土蔵が残っています。



坂本龍馬
慶応元年(1865年)に下関を訪れて以来、下関の人々と交流を深めるとともに、下関を拠点にして様々な運動を行っています。

自分が行ったことがある場所や、夏休み中に行った場所の□の中に、チェックを入れてみよう。



1839年(0歳) 萩市で生まれる。
1846年~1847年(7,8歳ごろ) 藩校(武士の子が通う学校)明倫館に入学する。
1857年(18歳ごろ) 吉田松陰の松下村塾に通い始める。

1860年(21歳) 海軍の訓練のため、江戸へ向かう。
1862年(23歳) 幕府使節随員として上海に行き、見聞を広げる。

1863年(24歳) 奇兵隊を結成する。
1864年(25歳) 功山寺で決意表明。長州藩が1つになるきっかけとなる。

1865年(26歳) 長州藩が1つにまとまり、幕府に抵抗することとなる。
1866年(27歳) 小倉戦争に奇兵隊とともに参加し、幕府軍に勝利する。

1867年(満27歳) 肺結核にて亡くなる。

1 白石正一 旧宅跡

幕末、竹崎の清原閣 白石正一は、下関を訪れた各地の人々と交流しました。小倉戦争では、高杉晋作と坂本龍馬が白石家で作戦を練ったといわれています。



維新の風雲児 高杉晋作の足跡

幕府と藩の対立が激化し、幕府の役人が伏見の寺田屋に宿していた坂本龍馬を襲撃しました。その際、龍馬は、晋作から贈られたピストルで反撃しています。龍馬の死を境に、下関から長門に向かう龍馬に対し、晋作が漢詩を書き贈っているのが、ピストルはそのときに一緒に渡されたのではないのでしょうか。

晋作と龍馬の友情



龍馬も訪れた萩市は、全国に知られた有名な花街。大森に次いで繁栄した下関は「西の長崎」と呼ばれ、幕末維新のときには、高杉晋作・伊藤博文ら若き武士たちが往来していました。

4 桜山神社

江戸時代、下関の本陣で大年寄をつとめた伊藤家の跡。家の本陣と呼ばれていました。幕末、当主伊藤九三は、坂本龍馬と親交が厚く、龍馬と妻のお龍が新婚生活を送っています。

10 末廣稲荷神社

龍馬も訪れた萩市は、全国に知られた有名な花街。大森に次いで繁栄した下関は「西の長崎」と呼ばれ、幕末維新のときには、高杉晋作・伊藤博文ら若き武士たちが往来していました。

江戸時代、下関の本陣で大年寄をつとめた伊藤家の跡。家の本陣と呼ばれていました。幕末、当主伊藤九三は、坂本龍馬と親交が厚く、龍馬と妻のお龍が新婚生活を送っています。

11 本陣伊藤邸跡

新時代と共に夢見た高杉晋作と坂本龍馬の友情が二本の石柱で数えられています。



明治の新しい時代へ
おもしろきこともなき世におもしろく
「動けば意中の如く、死すれば風雨の如し」と呼ばれた若き天才革命家だった。
by 伊藤博文